

介護ビジョン

ケアのある風景
株式会社あらたか

緊急特別鼎談

2021年度

介護報酬改定は
こう乗り越えろ！

第1特集

死に方ではなく
生き方

介護がめざす

「看取り」

とは

第2特集

投資の専門家が考える

「これから」来る

介護関連サービス





医療法人社団奉志会

●兵庫県加古川市

〒673-0233 平岡町新在家2-3-33-2

TEL 079-492-0935

URL hinode.or.jp/about/houshikai/

1994年設立。大西メディカルクリニックを母体に、兵庫県加古川市を中心に診療所や介護老人保健施設を運営している。兵庫県を中心に医療から介護、保育、障がい福祉などの事業を展開する「日の出医療福祉グループ」の一員

株式会社

アニスピホールディングス

●東京都千代田区

九段南3-1-1 久保寺ビル3F

TEL 0120-949-615

URL anispj.co.jp/

代表取締役は藤田英明氏。人の福祉とペットの福祉に必要とされるトータルサポートを提供。ペット共生型障がい者グループホーム事業のほか、生活介護障がい者デイサービス、女性の動物看護師によるペットシッター&看護事業などを展開。

「わおん」とは…

株式会社アニスピホールディングスが展開する「保護犬・保護猫」とともに暮らす障がい者グループホーム「共同生活援助」。2018年8月よりスタートし、2021年2月現在、全国に452拠点。フランチャイズ契約より自由かつ、ライセンス契約よりはサポートが手厚い、レバニューエナという独自のモデルを採用。事業収益配分はオーナー「わおん本部」が97.3とあらかじめ決められており、必要なサポートのみ選んで受けられるので無駄のない運営ができる。事業者が事業計画から運営まで行うのを、同社がサポートする。ブランド名などは自由で、業者の指定・サービスの変更なども可能。



やケアの可能性を広げる

兵庫県加古川市・加古郡にオープンした。動物との共生が入居者・職員にもたらしものを伺った。

「動物とともに暮らせる」ことが 選ばれる施設への一歩に

「困っている人を助けたいというのが日の出グループ全体の理念であり、それを実現すべく事業を拡大してきました」と語る、医療法人社団奉志会理事長の大西奉文さん。診療所のほか介護老人保健施設・デイケア等を複数展開している。

2020年9月から、兵庫県加古川市と加古郡で障がい者グループホーム「Hinode Waon シェアホーム」を4拠点オープン。いずれも、犬や猫などのペットと障がい者がともに暮らせる点が、大きな特徴だ。

「グループ内の特別養護老人ホームで複数の犬を飼っており、利用者様の癒しになるなど、アニマルセラピーのような効果を感じていました。今回は、かねてから親交のあった株式会社アニスピホールディングスの藤田英明さんが提供する、ペット共生型障がい者グループホームの「わおん」に参画するかたちで施設を開きました」と、大西さんはその経緯を話す。

「わおん」はペット共生型福祉施設としてブランド化されており、2021年2月の時点で452拠点が誕生している。

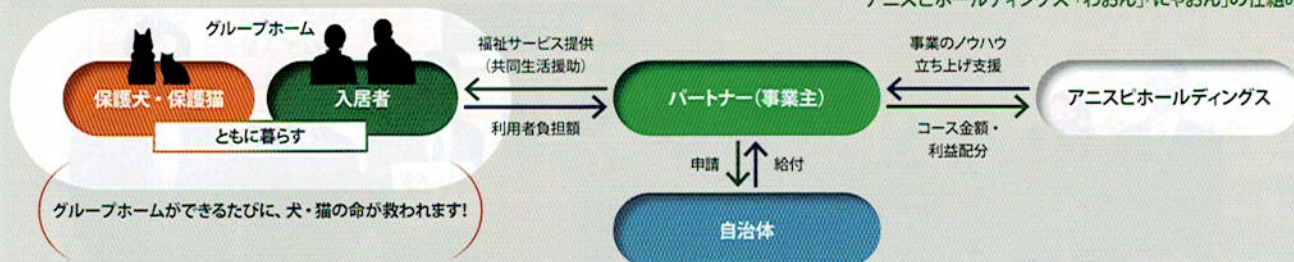
同法人が運営しているシェアホーム別府では、保護犬のNPO団体から柴犬を譲り受けて、入居者とともに暮らしている。

「女性になつきやすかったということもあり、女性専用のシェアホームウイメンズ別府で飼っています。入居者様にとっても、一緒に散歩をするなど世話をすることで生活に張りが生まれるほか、スキンシップを図るこ



- 1 くつろぎの一コマ。ペットがそばにいることは当たり前の日常となっている。
- 2 ペットと触れることが刺激となり、入居者の毎日の喜びにもつながる。
- 3 ペットとの散歩などを通じて身体を動かす機会も生まれるほか、世話をすることで役割の確認や生きがいづくりにもなる。
- 4 買い物やお出かけにはペットも同行。「家族の一員になっている。」
- 5 そばにいてくれる存在がいることが、入居者の癒しになる。
- 6 「ペットから与えられる力を日々感じている」と話す、大西奉文理事長。
- 7 施設らしさを排除し、戸建て住宅のように暮らせるシェアホーム別府。

アニスピホールディングス「わおん」「にゃおん」の仕組み



共生社会への挑戦



Hinode-Waonシェアホーム 兵庫県加古川市・加古郡

動物との“共生”が入居者や

犬や猫をはじめとする動物が、障がい者とともに生活するグループホームが兵庫!

とで心が安定するなど、QOLの向上が期待できま
す」と大西さん。特に障がい者の場合、対人関係での
コミュニケーションに問題を抱えているケースも少なく
ない。動物とのコミュニケーションは言葉が不要なため、
リラックスしてかかわっている様子が見られるという。
また、同じシェアホームでは入居者もともとと飼っ
ていたペットの猫が同居しているほか、ウサギなどの
小動物を中心に飼育を企画しているシェアホームも
あるという。ペットは居室を除いて自由に歩き回って
おり、自然にスキミングが図れる。「ペットと住め
る」ことが入居の決め手になっているケースもある
そうだ。

「精神や軽度の知的障がいがあると引きこもりがち
ですが、リビングにペットがいると、皆さんが集まり
会話が生まれることも。自立支援の一環として手ご
たえを感じています」と、施設スタッフの飯野秀幸さ
んは言う。ペットの世話をすることで、自分の役割を
再認識するなど、入居者へ与える効果は計り知れな
いという。

さらに、スタッフ募集の際も「動物とともに働く」
ことが、大きな役割を果たしたという。「思っていた
以上に動物好きがいるようで、この人材不足の折で
も多くの人が応募してくれました。やりがいにもつ
ながっているようです」と、飯野さんは振り返る。

今後は、同法人が展開している医療や保育の分野
などでも、動物とのかかわりをもった事業展開も行っ
ていきたいと、大西さん。「グループホームも入居希
望者から選ばれる時代になります。そうしたときに
ペット共生型というこの形は、強みになると思います」